

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(自立支援、介護予防、要介護状態等の軽減、重度化防止)

(様式1)

保険者名	生駒市

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第7期介護保険事業計画に記載の内容			R2年度(年度末実績)		
現状と課題	第7期における具体的な取組(A)	目標(B) (事業内容、指標等)	実施内容 (R3.3月末実績)	自己評価	課題と対応策
坂道の多い本市において、高齢者の歩行能力の確保と向上、及び外出機会を増やすことは大きな課題である。	1総合事業 ①②介護予防・生活支援サービス事業(通所型・訪問型)	要支援状態や虚弱な高齢者の心身の状態に応じた、多様なサービスを整備し、自立支援を促進する。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	○	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い「自粛」や「不安」などから実績値としては大きく下がった。サービス事業を中心として自立支援を促進してきたが、このことから令和2年度においてはさらに一般介護予防事業なども活用し、手前のアセスメントを厚くすることで対応を行った。今後もサービス事業はしっかりと継続しながら、低下者のさらなる拾い上げを行う。
高齢になり転倒を経験した者が多いため転倒への不安が一概に高い。特に外出を控えている要支援者等に対する運動機能向上に関する取り組みが必要である。	③一般介護予防事業 ・介護予防普及啓発事業	介護予防の基本的な知識を普及啓発するため、パンフレットの作製配布や介護予防に資する教室を展開し、地域における自主的な介護予防の活動を支援する。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	○	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い「自粛」や「不安」などから特に「地域の通いの場」の休止が相次いだ。しかしながら、一般介護予防事業と併せ再開や立ち上げに向けた支援を行った結果、地域における自主的な介護予防の活動については、その重要性の理解も含め、令和2年の秋にはほぼ再開できた、という結果に繋がった。
高齢者の多様なニーズと社会参加への意欲に応えられるように、介護予防や健康寿命の延伸を図る機会や場の提供が求められる。	③一般介護予防事業 ・地域介護予防活動支援事業	ボランティアの養成・育成講座を実施し、活動の担い手を増やす取組みを行い、地域活動組織の育成・支援を強化する。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	○	感染対策の観点から、大勢をあつめる集会はず、各地域において介護予防についての講座を行ったり、いきいき百歳体操の立ち上げ支援とあわせて説明するなどの工夫をした。特に新型コロナウイルス感染拡大に伴う、高齢者の状態低下については多くのかたの賛同も得られ、これがあたらな通いの場の立ち上げにつながるなどした。
介護サービスの質を向上するために、介護従事者向けの研修、また医療従事者及び介護職員等に対する連携強化に向けた多職種連携研修等が必須。	③一般介護予防事業 ・地域リハビリテーション活動支援事業	地域におけるリハビリテーション、介護予防の取組みを強化するため、地域包括支援センターと連携し、自立支援型地域ケア会議、住民主体のサロンや運動教室、サービス担当者会議等へのリハビリテーション専門職の関与を推進する。	別紙2の通り	○	地域への派遣は、セラピストが医療関係者でもあることから感染リスクを避けざるを得なく、断念することとなった。しかし、事業所向けに自立支援・重度化防止につながる研修を行い、改めてサービスと通いの場のつながりについて啓発を行うなどした。今後は、感染状況を見ながら改めて地域への関与について検討していく必要がある
地域包括ケアシステムの構築に欠かせない、地域包括支援センターの機能の充実・強化が必要。	2包括的支援事業 ①包括的支援事業	高齢者が住みなれた地域で尊厳ある生活を継続していくために、地域包括支援センターにおいて包括的支援業務を充実・強化する。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	◎	後期高齢者の増加が見込まれることから、今後も引き続き地域包括支援センターにおける総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメント業務を横断的に取り組む。
地域包括ケアシステムの深化・推進に向け、既存の地域活動のネットワークの強化や地域活動に参加できる環境づくりを推進して、関係者・関係機関と連携・強化を行う。	2包括的支援事業 ②地域ケア会議の開催	民生委員・児童委員や自治会等の地域の支援者・団体や専門的視点を有する多職種を交え、「個別課題の解決」「地域包括支援ネットワークの構築」「地域課題の発見」「地域づくり、資源開発」「政策の形成」の機能を有する地域ケア会議を開催し、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備を推進する。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	◎	多職種の連携により多角的な視点を持ち、更なるケアマネジメントの質の向上を図るとともに、地域に必要な社会資源の開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画や市の総合計画への反映などの政策形成に繋げる。
地域包括ケアシステムの構築に当たって医療・介護の連携は不可欠であるため、在宅医療の充実とともに、連携強化を図る。	2包括的支援事業 ③在宅医療・介護連携の推進	医療と介護の両方を必要とする高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために、医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進する。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	◎	医療ニーズ及び介護ニーズを併せ持つ高齢者を地域で支えるために必要な入院時の情報共有、退院支援、日常の療養支援、急変時の対応、看取り等、様々な局面での連携を促進する支援体制の整備や関係機関との連携を進める。

第7期介護保険事業計画に記載の内容			R2年度(年度末実績)		
現状と課題	第7期における具体的な取組(A)	目標(B) (事業内容、指標等)	実施内容 (R3.3月末実績)	自己評価	課題と対応策
本市の多くの住民が、認知症の人が生活するために地域住民同士が協力し合うことが必要と認識しており、地域住民が助け合える場づくりを作るとともに、人材育成を行う。	2包括的支援事業 ④認知症施策の推進	認知症の容態の変化に応じて、適時・適切に切れ目なく保健医療サービス及び福祉サービスが提供される循環型の仕組みが構築されるよう、医療や介護に携わる人の認知症対応力の向上のための取り組みや、これらの人に対して指導助言を行う人の育成のための取り組みを進める。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	◎	引き続き医療介護に携わる専門職の認知症ケアの向上を図るとともに市民向けに認知症に関する知識の普及啓発を促進する。
生活支援体制整備は、様々な地域住民が関与するものであり、住民自治そのものの体制整備につながるもので、時間や調整に負担が大きく労力がかかり、地域づくりの専門家が少ない中で、体制を整えていくこと自体が課題である。	⑤生活支援体制整備	多様な日常生活上の支援を必要とする高齢者の増加に対応し、介護サービスだけに頼るのではなく、地域の中で新たな生活支援サービスを創出・整備を進める。	別紙2の通り	◎	虚弱高齢者や軽度認定者における新たな「支え手」や「サービス」を創出していけるよう人材の養成・育成を進めるため、地域ケア会議(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の開催を始め、小学校区レベルにおいて意見交換・協議を進めた。 今後は買い物支援等の必要性が高まっているため、訪問型Bのサービス構築に対する働きかけを進める。また、訪問型サービスAを充実するため、研修会などを行い、従事者を育成する。
介護者が相談しやすい体制が整備できるよう場を提供するために、生駒市介護者(家族)の会への支援として、相談やサロンの場に関して施設の貸し出し等の支援を行う。	3任意事業 ①家族介護教室	家族介護者が家族看護や介護技術を積極的に学べる機会を充実させ、介護負担の軽減を図ることや介護者同士の交流を図れるような機会を増やし、分かち合い・支え合いについての支援も行う。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	○	・認知症地域支援推進員を活用して、認知症の方及びその家族に対する相談・支援体制の強化を図る。
認知症になっても趣味や楽しみを継続してもらうため、白杖の代わりとなる役割となる人を育成する必要がある。	3任意事業 ②認知症支援隊	認知症の方の家族の負担感や疲労感の低減に資する役割を果たす人材を養成・育成を図る。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	◎	認知症支援隊の利用が少ないため、引き続き人材育成を図るとともに、活動の啓発や利用者とのマッチングを進める。
認知症等により判断能力が十分でない人の権利が侵害されないよう、高齢者の権利擁護の推進を図る。	3任意事業 ③成年後見制度利用事業	認知症等により判断能力が不十分である人を保護し、支援するため、財産管理や介護保険サービスの契約、入院・入所手続などが困難な方をサポートする。(その他別紙1のとおり)	別紙2のとおり	◎	今後の高齢化の進展により支援を必要とする人は増加すると想定されるため、対応できるよう体制整備を行う。
少子高齢化や核家族化の進行により、高齢者夫婦のみや単身世帯が一層増加すると見込まれる。	3任意事業 ④住宅改修支援事業	心身の状況や環境の変化等が生じても住み慣れた自宅や地域での生活が維持継続できるように様々な制度や仕組みの構築に取り組む。(その他別紙1の通り)	別紙2の通り	○	高齢者が住み慣れた自宅や地域での生活を継続維持できるよう、なお一層の仕組み作りが必要である。
精神的・身体的理由等により調理が困難な方は、虚弱な状態になる可能性が高いため、栄養状態改善が不可欠である。	3任意事業 ⑤食の自立支援事業	独居又は高齢者のみの世帯や高齢者と障がい者のみの世帯等で、精神的・身体的理由等により調理が困難な方に対し、栄養が管理されたお弁当を自宅に届け、栄養状態の改善と見守りを推進する。(その他別紙1のとおり)	別紙2のとおり	◎	高齢者の見守り事業の一環として、栄養状態の改善と見守りを継続する。
同居する高齢者などの家族を在宅で介護している市民に対し、紙おむつ等を支給して在宅介護者を支援する。	3任意事業 ⑥紙おむつ等支給事業	介護者・要介護者ともに市民税非課税世帯に紙おむつ代の補助を行う。(その他別紙1のとおり)	平成28年度に要綱改正を行い、支給要件の厳格化を図った。令和2年度においても、引き続き同様の支給要件で事業を行った。(R3.3月末実績は、別紙2のとおり)	○	支給要件の厳格化を行ないながらも、低所得者等への影響を考慮しつつ、介護者の経済的負担を軽減し、利用者に健康的な日常生活を送っていただくために事業を継続する。

第 7 期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

1 総合事業

①介護予防・生活支援サービス事業（通所型サービス事業）

事業名		2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
介護予防通所介護相当サービス	参加者延人数（人）	17,772	20,370	21,388	22,457
通所型サービス A 緩和した基準によるサービス	参加者延人数（人）		1,920	2,304	2,688
通所型サービス B ひまわりの集い	参加者延人数（人）	1,230	1,550	1,600	1,650
通所型サービス B 住民主体の通いの場	参加者延人数（人）		306	2,754	5,202
通所型サービス C パワーアップ PLUS 教室（通所型）	参加者実数（人）	86	104	104	104
	参加者延人数（人）	1,603	2,000	2,000	2,000
通所型サービス C パワーアップ教室	参加者実数（人）	102	144	144	144
	参加者延人数（人）	2,304	1,730	1,730	1,730
通所型サービス C 転倒予防教室	参加者実数（人）	31	40	40	40
	参加者延人数（人）	273	380	380	380

②介護予防・生活支援サービス事業（訪問型サービス事業）

事業名		2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
介護予防訪問介護相当サービス	利用者延人数（人）	18,675	18,900	19,845	20,837
訪問型サービス A 緩和した基準によるサービス	利用者延人数（人）	55	960	1,200	1,440
訪問型サービス B	利用者延人数（人）		228	912	1,368
訪問型サービス C パワーアップ PLUS 教室（訪問型）	参加者実数（人）	86	104	104	104
	参加者延人数（人）	124	208	208	208
訪問型サービス C パワーアップ教室（訪問型）	参加者実数（人）		24	24	24
訪問型サービス D	利用者延人数（人）		120	360	480

③一般介護予防事業

事業名		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
介護予防普及啓発事業	介護予防講演会	開催回数(回)	1	1	1	1
		参加者延人数(人)	235	250	250	250
	介護予防交流会(地域ねっこのつどい)	開催回数(回)		2	9	9
		参加者延人数(人)		285	445	485
	介護予防出前講座	派遣回数(回)	52	110	92	94
		参加者延人数(人)	1,369	2,300	2,030	2,060
	高齢者体操教室(のびのび教室)	開催回数(回)	207	220	220	220
		参加者延人数(人)	5,574	5,700	5,700	5,700
	高齢者体操教室(地域)	開催回数(回)	349	367	355	343
		参加者延人数(人)	6,227	6,500	6,260	6,020
	いきいき百歳体操	実施箇所数	56	65	75	85
	送迎付き運動器の機能向上教室	開催回数(回)	151	144	144	144
		参加者延人数(人)	894	1,150	1,150	1,150
	ひまわりの集い(地域型)	開催回数(回)	24	25	30	35
利用者延人数(人)		583	625	750	875	
エイジレスエクササイズ教室	開催回数(回)	23	72	120	144	
	参加者延人数(人)	706	1,152	1,920	2,304	
介護予防普及啓発事業	脳の若返り教室	開催回数(回)	309	310	310	310
		参加者延人数(人)	3,215	3,600	3,500	3,400
		サポーター延人数(人)	1,380	1,400	1,400	1,400
	コグニサイズ教室	開催回数(回)	44	48	72	96
		参加者延人数(人)	509	570	860	1,150
		サポーター延人数(人)	357	250	250	250
	地域型認知症予防教室	開催回数(回)	16	16	16	16
		参加者延人数(人)	199	200	200	200
	物忘れ相談事業	開催回数(回)	12	12	12	12
相談件数(件)		28	30	31	32	
地域介護予防活動支援事業	機能訓練事業(わくわく教室)	開催回数(回)	104	108	108	108
		参加者延人数(人)	1,951	2,100	2,200	2,300
	介護予防ボランティア養成・育成講座	開催回数(回)	12	9	9	9
		参加者延人数(人)		200	200	200
	徘徊高齢者模擬訓練	開催回数(回)	7	8	10	12
		参加者延人数(人)	186	160	200	240

事業名		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度		
地域リハビリテーション活動支援事業	地域リハビリテーション活動支援事業（１） リハビリ職派遣事業	開催回数（回）	26	26	25	24	
		参加者延人数（人）	404	420	400	380	
	地域リハビリテーション活動支援事業（２） 地域ケア会議（Ⅰ）	予 防	開催回数（回）	44	44	44	44
			利用者延人数（人）	503	620	640	660
		給 付	開催回数（回）		6	6	6
			利用者延人数（人）		12	12	12

2 包括的支援事業

①包括的支援事業

事業名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
介護予防ケアマネジメント業務（事業対象者数）	424	500	600	700
総合相談支援業務（件）	7,451	6,100	6,400	6,700
包括的・継続的ケアマネジメント業務（件）	693	660	680	700
権利擁護業務（件）	54	70	72	74

②地域ケア会議の開催

事業名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
地域ケア会議（Ⅱ）（回）	47	24	30	36
地域ケア会議（Ⅲ）（回）	32	28	30	32
地域ケア会議（Ⅳ）（回）	35	20	21	22

③在宅医療・介護連携の推進

事業名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
医療介護連携ネットワーク協議会（回）	1	1	1	1
在宅医療介護推進部会（回）	4	4	4	4
認知症対策部会（回）	4	4	4	4
医療介護連携相談窓口（相談件数）		120	140	160
多職種連携研修会（回）		3	3	3
市民公開講座（回）		1	1	1

④認知症施策の推進

事業名		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
普及啓発	認知症サポーター養成講座	開催回数（回）	33	30	30	30
		参加者人延数（人）	1,321	720	735	750
認知症予防	脳の若返り教室（再掲）	参加者延人数（人）	3,215	3,600	3,500	3,400
	コグニサイズ教室（再掲）	参加者延人数（人）	509	570	860	1,150
早期発見	認知症初期集中支援チーム	対応延件数（件）	2	14	17	21
	認知症地域支援推進員	配置数（人）	4	6	6	6
	物忘れ相談事業（再掲）	相談件数（件）	28	30	31	32
重度化予防	認知症に関するケア向上研修会	開催回数（回）	3	1	1	1
		参加者延人数（人）		50	50	50
本人・家族への支援	認知症カフェ	設置件数（件）	3	3	4	6
安心・安全の確保	徘徊高齢者模擬訓練（再掲）	開催回数（回）	7	8	10	12
	行方不明高齢者検索ネットワークシステム	登録者数（人）	152	170	180	190
虐待防止	虐待相談	相談件数（件）	81	95	100	105
	権利擁護	相談件数（件）	54	70	72	74
	虐待防止に資する研修会の開催	開催回数（回）		1	1	1
	高齢者虐待防止ネットワーク連絡会開催回数	開催回数（回）	1	1	1	1

⑤生活支援体制整備

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
第1層協議体（開催回数）	2	2	2	2

3 任意事業

事業名		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
適正化	介護予防ケアプラン点検	点検件数（件）	10	20	20	30
家族支援	家族介護教室	参加者延人数（人）	77	70	80	100
	認知症支え隊	支援人数（人）		3	6	9
		支援回数（回）		36	72	108
その他	成年後見制度利用事業	利用件数（件）	0	1	1	1

事業名		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
	認知症サポーター養成講座 (再掲)	開催回数(回)	33	30	30	30
		参加者延人数(人)	1,321	720	735	750
	住宅改修支援事業	利用件数(件)	71	90	90	90
	食の自立支援事業	利用件数(件)	31	30	30	30
	紙おむつ等支給事業	利用者数(人)	69	70	70	70

※ 2017年度については、実績値

第 7 期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

(1) 総合事業

①介護予防・生活支援サービス事業（通所型サービス事業）

		計画	実績 (R3.3月末まで)
		2020年度 (令和2年度)	
介護予防通所介護相当サービス	参加者延人数(人)	22,457	12,258
通所型サービス A 緩和した基準によるサービス	参加者延人数(人)	2,688	759
通所型サービス B ひまわりの集い	参加者延人数(人)	1,650	132
通所型サービス B 住民主体の通いの場	参加者延人数(人)	5,202	0
通所型サービス C パワーアップ PLUS 教室(通所型)	参加者実数(人)	104	67
	参加者延人数(人)	2,000	1,303
通所型サービス C パワーアップ教室	参加者実数(人)	144	65
	参加者延人数(人)	1,730	560
通所型サービス C 転倒予防教室	参加者実数(人)	40	32
	参加者延人数(人)	380	269

②介護予防・生活支援サービス事業（訪問型サービス事業）

事業名		計画	実績 (R3.3月末まで)
		2020年度 (令和2年度)	
介護予防訪問介護相当サービス	利用者延人数 (人)	20,837	11,238
訪問型サービス A 緩和した基準によるサービス	利用者延人数 (人)	1,440	1,875
訪問型サービス B	利用者延人数 (人)	1,368	0
訪問型サービス C パワーアップ PLUS 教室(訪問型)	参加者実数(人)	104	70
	参加者延人数(人)	208	111
訪問型サービス C パワーアップ教室(訪問型)	参加者実数(人)	24	0
訪問型サービス D	利用者延人数(人)	480	0

③一般介護予防事業

事業名		計画		
		2020年度 (令和2年度)	実績 (R3.3月末まで)	
介護予防普及啓発事業	介護予防講演会	開催回数(回)	1	1
		参加者延人数(人)	250	2,060
	介護予防交流会(地域 ねっこのつどい)	開催回数(回)	9	0
		参加者延人数(人)	485	0
	介護予防出前講座	派遣回数(回)	94	8
		参加者延人数(人)	2,060	123
	高齢者体操教室 (のびのび教室)	開催回数(回)	220	164
		参加者延人数(人)	5,700	2,118
	高齢者体操教室(地域)	開催回数(回)	343	238
		参加者延人数(人)	6,020	2,834
	いきいき百歳体操	実施箇所数	85	90
	送迎付き運動器の機能 向上教室	開催回数(回)	144	90
		参加者延人数(人)	1,150	545
	ひまわりの集い(地域 型)	開催回数(回)	35	0
利用者延人数(人)		875	0	
エイジレスエクササイ ズ教室	開催回数(回)	144	34	
	参加者延人数(人)	2,304	248	
介護予防普及啓発事業	脳の若返り教室	開催回数(回)	310	180
		参加者延人数(人)	3,400	1,768
		サポーター延人数(人)	1,400	808
	コグニサイズ教室	開催回数(回)	96	35
		参加者延人数(人)	1,150	169
		サポーター延人数(人)	250	157
	地域型認知症予防教室	開催回数(回)	16	0
		参加者延人数(人)	200	0
	物忘れ相談事業	開催回数(回)	12	9
		相談件数(件)	32	24
	クラブ学習会	開催回数(回)	—	74
		参加者延人数(人)	—	1,868
	実務講習会	開催回数(回)	—	13
		参加者延人数(人)	—	148
スポーツ大会	開催回数(回)	—	0	
	参加者延人数(人)	—	0	

事業名		計画		実績 (R3.3月末まで)
		2020年度 (令和2年度)		
	大学祭	開催回数(回)	—	0
		参加者延人数(人)	—	0
地域介護予防活動支援事業	機能訓練事業 (わくわく教室)	開催回数(回)	108	74
		参加者延人数(人)	2,300	961
	介護予防ボランティア 養成・育成講座	開催回数(回)	9	0
		参加者延人数(人)	200	0
	徘徊高齢者模擬訓練	開催回数(回)	12	1
		参加者延人数(人)	240	7
地域リハビリテーション活動支援事業	地域リハビリテーション活動支援事業(1) ※リハビリ職派遣事業	開催回数(回)	24	0
		参加者延人数(人)	380	0
	地域リハビリテーション活動支援事業(2) ※地域ケア会議(I)	予 開催回数(回)	44	39
		防 利用者延人数(人)	660	402
		給 開催回数(回)	6	—
			付 利用者延人数(人)	12

(2) 包括的支援事業

① 包括的支援事業

事業名	計画		実績 (R3.3月末まで)
	2020年度 (令和2年度)		
介護予防ケアマネジメント業務(事業対象者数)	700		275
総合相談支援業務(件)	6,700		7,502
包括的・継続的ケアマネジメント業務(件)	700		604
権利擁護業務(件)	74		140

② 地域ケア会議の開催

事業名	計画		実績 (R3.3月末まで)
	2020年度 (令和2年度)		
地域ケア会議(II)(回)	36		54
地域ケア会議(III)(回)	32		54
地域ケア会議(IV)(回)	22		28

中地区の協議会等複数の包括が参加するものは1カウント。

③在宅医療・介護連携の推進

事業名	計画	実績 (R3.3月末まで)
	2020年度 (令和2年度)	
医療介護連携ネットワーク協議会 (回)	1	1
在宅医療介護推進部会 (回)	4	3
認知症対策部会 (回)	4	3
医療介護連携相談窓口 (相談件数)	160	107
多職種連携研修会 (回)	3	0
市民公開講座 (回)	1	1

④認知症施策の推進

	事業名	計画	実績 (R3.3月末まで)
		2020年度 (令和2年度)	
普及啓発	認知症サポーター養成講座	開催回数 (回)	26
		参加者人延数 (人)	1,019
認知症予防	脳の若返り教室 (再掲)	参加者延人数 (人)	1,768
	コグニサイズ教室 (再掲)	参加者延人数 (人)	326
早期発見	認知症初期集中支援チーム	対応延件数 (件)	2
	認知症地域支援推進員	配置数 (人)	6
	物忘れ相談事業 (再掲)	相談件数 (件)	24
重度化予防	認知症に関するケア向上 研修会	開催回数 (回)	0
		参加者延人数 (人)	0
本人・家族 への支援	認知症カフェ	設置件数 (件)	5
安心・安全 の確保	徘徊高齢者模擬訓練 (再 掲)	開催回数 (回)	1
	行方不明高齢者搜索ネット ワークシステム	登録者数 (人)	145
虐待防止	虐待相談	相談件数 (件)	39
	権利擁護	相談件数 (件)	98
	虐待防止に資する研修会の 開催	開催回数 (回)	3
	高齢者虐待防止ネットワー ク連絡会開催回数	開催回数 (回)	0

⑤生活支援体制整備

	計画	実績 (R3.3月末まで)
	2020年度 (令和2年度)	
第1層協議体 (開催回数)	2	2

(3) 任意事業

	事業名		計画	実績 (R3.3月末まで)
			2020年度 (令和2年度)	
適正化	ケアプラン点検 (給付・介護予防)	点検件数 (件)	30	10
家族支援	家族介護教室	参加者延人数 (人)	100	32
	認知症支え隊	支援人数 (人)	9	10
		支援回数 (回)	108	145
その他	成年後見制度利用事業	利用件数 (件)	1	3
	認知症サポーター養成講座 (再掲)	開催回数 (回)	30	26
		参加者延人数 (人)	750	1,019
	住宅改修支援事業	利用件数 (件)	90	89
	食の自立支援事業	利用件数 (件)	30	28
	紙おむつ等支給事業	利用者数 (人)	70	33

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(介護給付適正化)

(様式2)

保険者名	生駒市

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第7期介護保険事業計画に記載の内容			R2年度(年度末実績)		
現状と課題	第7期における具体的な取組(A)	目標(B) (事業内容、指標等)	実施内容 (R3.3月末実績)	自己評価	課題と対応策
<p>主要5事業については、要介護認定の適正化・ケアプランチェック・縦覧点検・住宅改修・福祉用具の実態調査・給付費通知を実施している。住宅改修、福祉用具については、申請書類の全件点検を実施し、住宅改修については必要に応じて現地確認を実施している。今後も主要5事業を重点的に実施できるようにする。</p>	<p>高齢者の自立支援・重度化防止に向け、主要5事業の取り組みを強化する。 ・要介護認定の適正化 ・ケアプランの点検 ・縦覧点検・医療情報との突合 ・介護給付費通知 ・介護サービスの質の更なる向上を図る。 ・ケアマネジャーハンドブックの改訂 ・事業者間の連携の支援</p>	<p>・要介護認定の適正化(事後点検件数) 全件 ・ケアプラン点検の実施(要介護認定者) 点検数 H29年度 40件 H30年度 94件 H31(R1)年度 98件 R2年度 30件 ※H29～H31(R1)年度は実績(給付・介護予防) ・住宅改修費等の点検 H30 年度 実施準備 3件実施 H31(R1)年度 4件実施 R2 年度 事前20% 事後20% ・介護給付費通知実施回数 H30 年度 年4回 H31(R1)年度 年4回 R2 年度 年4回 (H27年度までは年2回実施し、H28年度途中から3ヶ月毎に実施している。今年度以降も継続して実施し、介護給付の適正化につなげる。 ・ケアマネジャーハンドブックの改訂 「生駒市居宅介護支援事業者協会」の研修等を活用し、制度改正等の情報提供を行う。 ・居宅介護支援事業者協会で制度改正等に関する情報提供を行った。(4月、7月、11月、2月)</p>	<p>要介護認定の適正化(事後点検件数) 全件 ケアプラン点検の実施(要介護認定者) 介護1・2 自立支援型 点検数 30件 一定回数を超えた生活援助中心型の点検 8件 軽度者申請 46件 合計84件 住宅改修等の点検(現地確認)実施 0件 縦覧点検・医療情報との突合(国保連合会に委託して実施) 介護給付費通知 9月(3,737人) 12月(3,662人) 3月(3,664人) 給付実績の活用 給付実績に基づく要介護1の者等に係る福祉用具貸与確認(年6回) ケアマネジャーハンドブックの改訂及びケアマネジャー向け研修(オンライン)の実施</p>	◎	<p>ケアプラン点検については奈良県の研修で学んだ方法をもとに独自のチェックシートを用いて点検を実施した。点検機会を増やすために、通常業務等における点検機会(軽度者に係る福祉用具貸与申請時等)を増やした結果、目標値を上回ることができた。今後も点検件数を増やす方策を考え、取り組んでいく予定である。 自立支援、重度化防止等に資する施策として、介護1・2の自立支援型ケアプラン点検で課題を見つけたケアプランを対象に、地域ケア会議を実施した。多職種で課題を検討することで、担当ケアマネジャーが多角的な意見を踏まえ計画を見直すことが出来た。また、福祉用具貸与等について理学療法士、作業療法士が中心となって検討した。 住宅改修については、引き続き提出書類の全件点検を実施した。新型コロナウイルスの感染防止のため、現地確認については実施しなかった。 ケアマネジャーハンドブックは改訂を行うとともに、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と協力し、市内のケアマネジャー等に向けての研修を実施し、内容の理解を深めてもらうとともに今後の活用を促進した。 令和2年度は新型コロナウイルスの影響があり、目標を達成できなかった部分もあったが、概ね予定どおり事業を実施することができた。今後も限りある人員体制や変わりゆく社会情勢のなかで、適正なサービス提供を行うために、担当職員の知識向上を図り、持続可能な体制を維持していく必要がある。</p>